

米国金融政策（2023年3月FOMC）

金融不安が燃える中で0.25%ポイントの追加利上げを決定

2023年3月23日

貸出態度の厳格化も念頭に、利上げ打ち止めに近づく

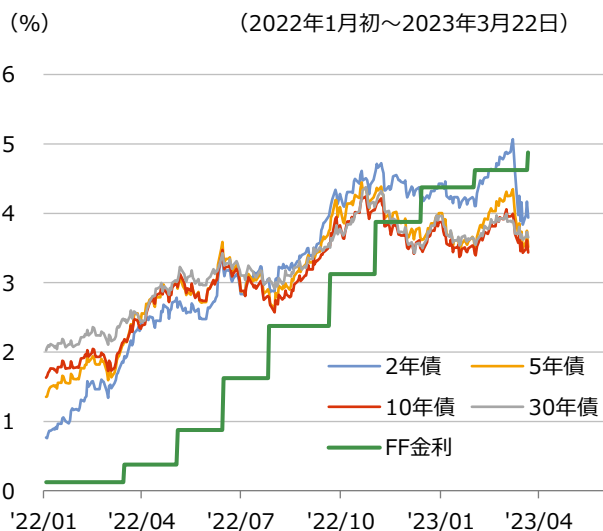
FRB（米国連邦準備制度理事会）は3月21日-22日（現地）にFOMC（米国連邦公開市場委員会）を開催し、政策金利であるFF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標レンジを、4.50～4.75%から4.75～5.00%へ0.25%ポイント引き上げを全会一致で決定しました。そのほか、国債やMBS（住宅ローン担保証券）の保有額縮小も、計画通り実施していくことが再確認されました。

声明文には「幾分の追加引き締めが適切となるかもしれない」と記し、追加利上げを既定路線とした「誘導目標レンジの継続的な引き上げが適切」との従来の文言を変更しました。類似の文言は2018年の利上げ局面終盤でも用いており、FRBは利上げ打ち止めに近づきつつあることを示唆しました。前回2月FOMC後の経済指標は上振れたものの、パウエル議長は「貸出態度が幾分厳格化することは1回程度の利上げ相当の効果を持ちうる」と指摘し、利上げ到達点の更なる引き上げにひとまず慎重な姿勢を示しました。

債券市場ではFOMC後に幅広い年限で金利が低下しました。FF金利先物は次回5月FOMCの追加利上げを5割前後織り込む一方、年央以降は低下基調となるなど年内に2回強の利下げも織り込んでいます。パウエル議長は年内の利下げ開始を改めて否定しているものの、市場では金融政策の転換期待が強い格好です。

先行きの金融政策について、FRBは経済指標ならびに金融環境を注視しています。とくに金融機関の貸出態度がどの程度、どれくらいの期間厳格化するかが、全体的な引き締め強度に影響することになります。

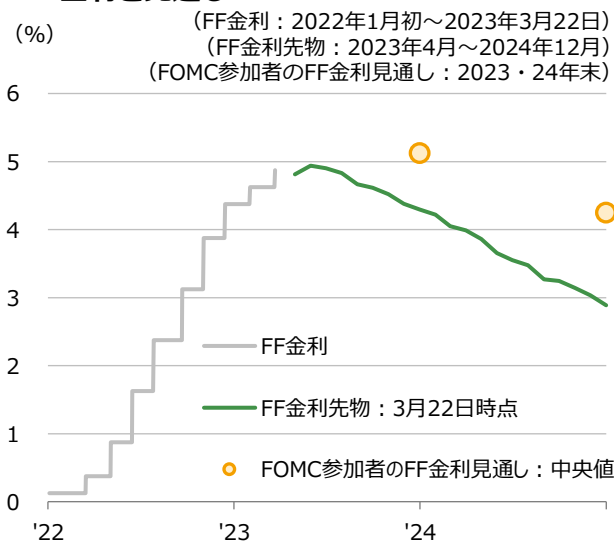
FF金利と米国債利回り



(注) FF金利は決定日ベースで誘導目標レンジの中心値

(出所) ブルームバーグ

FF金利と見通し



(注) FF金利は決定日ベースで誘導目標レンジの中心値

(出所) FRB、ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management